

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

別紙1

令和4年1月 日

協議会名: 大槌町地域公共交通会議
評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
大槌地域振興株式会社	<p>1 編成前 【運行系統名】 金沢赤浜線(4系統) 小鎚浪板線(4系統) 【実施期間】 令和2年10月1日(木) ～ 令和2年12月15日(火)</p> <p>2 編成後 【運行系統名】 金沢小鎚線(5系統) 循環線(1系統) 【実施期間】 令和2年12月16日(水) ～ 令和3年9月30日(木)</p> <p>利用状況の推移を捉え、 運行経路と便数を見直す とともに、利用促進を図 るため、自治体広報等を 活用した広報を実施する もの。</p>	<p>【前回の評価結果】 (1)一次評価 ・新しいまちの形に合わせた新しい暮らしの足 として、住民の暮らしを支える持続可能な公共 交通の存続と、効率的な公共交通体系の構築 のため、多様なニーズに柔軟に対応できる新 たな公共交通手段の検討を進め、地域全体で 利用者の利用頻度向上、新規利用者の増加を 目指す。 (2)二次評価 ・利用実態等の現状分析を行い、持続可能な 地域公共交通サービスを実現するため、次期 公共交通計画の策定に反映していくことを期 待する。</p> <p>【評価結果の反映状況】 利用実態等の現状分析では、乗降調査や住 民・事業者ヒアリングを基に既存の路線や時刻 の見直しについて公共交通事業者間のワーキ ングを重ね、持続可能な地域公共交通サービ スを実現するため、令和2年12月16日に全系 統の再編成を行った。 内容は、「金沢赤浜線」と「小鎚浪板線」を統 合した「金沢小鎚線」の新設した。また、実証 運行していた、「循環線」を本格運行し、利用促 進に向けて取り組んだ。 また、ダイヤ改正時には、改めて大槌町公共 交通時刻表を作成し、乗降者数が多い岩手県 立大槌病院や大型商業施設等に配架した。さ らに、町の広報誌への掲載を通じて町民バス の利用促進を図った。</p> <p>※参考資料の通り</p>	<p>事業が計画に位置 付けられたとおり、 適切に実施され た。</p> <p>【評価の判定基準】 A: 計画に位置付け られたとおり、適切 に実施された。 B: 計画に位置付け られたとおりに実施 されていない点があ った。 C: 計画に位置付 けられたとおりに実 施されなかった。</p>	<p>【目標値】 ①町民バス(路線バス)の収支 率を25%以上 ②町民バス(路線バス)の利用 者数を年間延べ70,000人以上 【実績値】 ①14.31% ②23,948人 【達成率】 ①達成率 57.2% ②達成率 34.2% ※金沢小鎚線(大貫台～きらり 商店街～大槌駅)は補助対象 基準(1運行当たり2人以上)を 達成できなかった。</p> <p>昨年実績と収支率、利用者数 を比較すると、大幅に減少し た。要因として、新型コロナウイ ルスの影響による外出自粛等 の影響が大きいと推測する。ま た、町内の人口減少や少子高 齢化も要因と推測する。</p> <p>【評価の判定基準】 A: 目標を達成した。 B: 目標達成80%以上100%未満 C: 目標達成80%未満、又は、補 助対象外(1運行当たり2人未 満、運行割合30%未満)</p>	<p>住民や利用者のアンケートや ヒアリングによる現状調査では、 特に町民バスと県交通バスの乗 継について改善の意見が多いこ とから、それぞれのダイヤ改正 に係る連携を強化し、利用頻度 の向上、新規利用者の増加を図 るため、誰でもわかりやすい時 刻表を作成など、運賃収入の増 に向けて取り組んでまいります。 また、令和4年10月からの次期 計画には、幹線・支線のネット ワーク強化や、利用促進を図る 取り組みを掲げ、関係機関と連 携しながら取り組んでまいりま す。</p>